

ち い き う つ 地域で受け継がれてきたもの

吉田町には、昔から伝わっている様々な年中行事や文化財があります。どんなものがあるか調べてみましょう。また、どのようにして生まれたのか、現代に残すためにどんな工夫や努力をしているのか考えてみましょう。

1 吉田町の年中行事

春

- 林泉寺の長藤まつり
- 凧揚げまつり
- みどりのオアシスまつり
- チューリップまつり



みどりのオアシスまつり



凧揚げまつり



林泉寺の長藤まつり



チューリップまつり

夏

- かわしり じんじゃ はち まん つ しま 川尻神社(八幡津島神社)夏祭り(7月)
- すみよし かた おか 住吉神社(片岡神社)夏祭り(8月)
- じ ぞう いん ひやくまんべん 地蔵院の百万遍(8月)
- みなと 吉田町港まつり・花火大会(8月)



住吉神社夏祭り



住吉神社夏祭り やっこ 奴



川尻神社夏祭り



川尻神社夏祭り 奴



地蔵院の百万遍



花火大会

秋

- 吉田町文化祭 (10月) さい
- 小山城まつり (11月) こやまじょう
- 秋祭り (10月)
【住吉神社・川尻神社・山王神社・大幡神社・神明宮・
おおいじんじゃ あたごじんじゃ
大井神社・愛宕神社】



神明宮



愛宕神社



山王神社



北区 四屋台

冬

- 吉田町はたちの集い (1月) つど
- 吉田町駅伝大会 (1月) えきでん



はたちの集い



駅伝大会

2 吉田町の文化財



文化財とは・・・長い歴史の中で生まれ、はぐくまれ、今日まで守り伝えられてきた
貴重な国民的財産。

吉田町の文化財一覧

区分	名称	説明	指定日	
国	能満寺のソテツ	日本三大ソテツの一つ。根まわり4.5mで、安倍晴明や徳川家康などにまつわる伝説が残っている。	大正13年(1924)12月9日	
県	刀	源正行がつくった刀。鑄造りの最上作。	昭和31年(1956)10月17日	
	太刀	長船師光の名前が入った、鑄造りの最上作。	昭和39年(1964)4月21日	
	脇指	江戸時代の名工、長曾祢庸徹がつくった脇指。	昭和30年(1955)4月19日	
町	家康御陣場跡	小山城をめぐる戦いで徳川家康が陣地を構えた所のあと地。	昭和39年(1964)4月1日	
	大熊備前守屋敷跡	初代小山城主大熊備前守が住んでいた建物があった所のあと地。		
	萬年の茶がま	徳川家康からもらったと伝えられている茶がま。		
	小山城跡	武田軍が遠州をせめるためのきちとした城のあとで、三重堀などが残っており、武田氏の城をつくるぎじゅつを見ることができる。		
	能満寺原古墳	吉田町の代表的な古墳。		
	和泉太夫使用の人形(その墓と関係文書)	吉田町出身の浄瑠璃師が使用した、古浄瑠璃人形。		
	条里制遺跡	大化の改新の後に、条里田があったとされる所。		
	萬年のサツキ	高さ2.5m、周囲34mの大サツキ。		
	鈴木養邦師の石橋	鈴木養邦師が自分のお金を出してかけた石橋。		
	長源寺の経塚	吉田町でただ一つの、文がぎざまれている経塚。 ※経塚…仏の教えが書かれた文書を地下にうめた場所。		昭和48年(1973)4月1日
	地藏院の百万遍	江戸時代初期から続く行事で、悪疫退散を願って、地域の人々によって続けられている行事。		昭和53年(1978)2月9日
	野中家所蔵の古文書	江戸時代初期の下吉田村(今の住吉地区)において、土地を調べた記録。		昭和56年(1981)2月10日
	三番神社所蔵の人形の首	江戸時代中期より後の浄瑠璃の代表的な首。		昭和57年(1982)5月3日
	武田氏の朱印状	武田氏が遠州で発行した最初の朱印状。 ※朱印状…戦国時代の大名が自分のりょう地で力を示すために使った文書のこと		
	能満寺の古文書	戦国時代末期から江戸時代初期の能満寺の書類。	昭和57年(1982)5月3日	
	本寿寺の木彫り龍	大きな一本の楠の木が使われている、写実的な木彫りの龍。	昭和63年(1988)6月1日	
	寺島川除地蔵の灯籠あげ	水の事故でなくなった人のたましいをしずめるとともに、洪水の被害からまぬがれることを願い、地域の人々によって続けられている行事。	平成3年(1991)12月1日	
	能満寺の山号額・寺号額	黄檗宗万福寺第5代の高僧高泉性激が書いたかん板であり、寺の表札として、またれきし的にもかちのあるものである。	平成5年(1993)8月1日	
	川本月下「梅花の図」	吉田町に住んでいた墨梅画の第一人者である、川本月下が年老いてから作った名作。	平成8年(1996)5月31日	
	林泉寺の十王像	十王思想にもとづく、今も残っているかちのある十王像。	平成14年(2002)12月2日	
	川尻の道標	江戸時代の大きな道標であるとともに、なくなった人が安らかにねむれるようにという願いもこめて、立てられたもの。	平成19年(2007)5月29日	
	片岡神社(通称住吉神社)船絵馬群	江戸時代から明治時代におさめられた船絵馬11点で、その当時の漁業に関わる人々の信仰を知ることができる。	令和2年(2020)3月25日	



吉田町の文化財の詳細はこちら

① 能満寺の大ソテツ

能満寺のソテツは国の天然記念物に指定されており、日本の三大ソテツの一つに数えられる。樹齢は1000年以上と言われている。



約200年前の木版画

「大蛇どソテツ」の伝説

今から1000年以上前に安倍晴明という人物が、流れ着いている大蛇を見つけた。ていねいに土に埋め、その上にソテツを植えたところ、まるで大蛇のように大きく曲がりくねって成長したという。

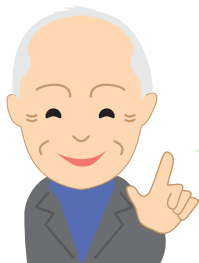
初めて、このソテツを見たとき、「大きいなあ。」と声が出しました。私が能満寺に来てからも、どんどん成長しています。

樹齢1000年以上ともいわれ、とても貴重なものです。これからもずっと守り続けていかなければならないと思っています。



3 年中行事や文化財を受け継いでいくために

吉田町にはたくさんの年中行事や文化財があることがわかりましたね。それぞれの年中行事や文化財のもつ意味を考えたり、地域の人々の願いを考えたりして、受け継いでいくために自分たちには何かできるのか考えてみましょう。



ぶんかざいほごしんざいかいちよう
文化財保護審議会会長
松澤さんのお話

わたしたちは、吉田町にある歴史的、文化的に価値が高いものを、文化財として登録し、それを広め、守る活動をしています。

文化財は、地域の財産であり、人々の心を豊かにしてくれる「心の財産」でもあります。

住吉神社では、毎年、神様のためのお祭りを行っています。たくさんの方が参加してくれますが、なやみもあります。それは「奴」を担当する人が少なくなっていることです。使う奴は、大きい物で全長328cm、重さ27kgにもなります。



ぐうじ
住吉神社宮司
松浦さんのお話

年中行事や文化財を守るために努力している人は他にもいるかな？



ねんぴょう
★文化財の年表

やく
約1700年前～

こ だい
古代

のう まん じ はら こ ふん あすか じ だい
能満寺原古墳(飛鳥時代)



1400年以上前に築かれたとされる古墳(有力者の墓)

じょうり せい い せき
糸里制遺跡(飛鳥時代)



古代の田地の制度を示す史跡。
「吉田たんぼ」が1000年以上前からあったことがわかる。

約900年前～

ちゅう せい
中世

かま くら
能満寺のソテツ
(鎌倉時代といわれている)



いえ やす ご じん ば あと せん ご く あつ ち もち ま
家康御陣場跡(戦国・安土桃山時代)



徳川家康が陣をおいたとされる史跡

こ やま じょう せき
小山城跡(戦国・安土桃山時代)



武田氏が遠州攻略の拠点としてぎずいた城。
城は復元されたものであるが、当時作られた掘は現存している。

約400年前～

きん せい
近世

いずみ だゆう しょう
和泉太夫使用の人形(江戸時代)



江戸時代に行われた浄瑠璃で使われたとされる人形。

約150年前～

きん だい
近代

すず き よう ほう し いし ぼし めい じ
鈴木養邦師の石橋(明治時代)



鈴木養邦師が吉田町に寄付した石橋。当時の吉田町は、丸太橋がかかっていたが、養邦師の寄付により、石橋に架けかえられた。

げん だい
現代